

令和元年度 創形美術学校

項目別・学校関係者評価表

実施日：令和2年8月14日

※令和元年度学校自己評価をもとに評価実施

本物にふれる 本当の力をつける



学校法人高澤学園 美術造形専門学校

創形美術学校

ファインアート科／ビジュアルデザイン科／研究科

目 次

| | |
|---|-------------------------------|
| 1 | 1. 学校の教育目標 |
| | 2. 本年度に定めた重点的に取り組むことが必要な目標や計画 |
| | 3. 評価項目の達成及び取組状況 |
| | (1) 教育理念・目標 |
| 2 | (2) 学校運営 |
| | (3) 教育活動 |
| 3 | (4) 学修成果 |
| | (5) 学生支援 |
| 4 | (6) 教育環境 |
| | (7) 学生受入募集 |
| 5 | (8) 財務 |
| | (9) 法令遵守 |
| 6 | (10) 社会貢献・地域貢献 |
| | (11) 国際交流 |
| 7 | 4. 学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果 |
| | (1) 教育評価 |
| | (2) 財務評価 |
| | (3) 自己評価 |
| 8 | (4) 学校関係者評価 |
| | 5. 学校関係者評価委員の評価結果について |

1. 学校の教育目標

本校は広く美術造形・デザイン全般に関する高度な学理と技能の教授、あわせてグローバルな社会に対応する幅広い教養を身に付けた人格の形成を図り、現代社会に貢献する優れたクリエイターを育成する。それによって日本文化の発展に貢献することを目的とする。

2. 本年度に定めた重点的に取り組むことが必要な目標や計画

- (1) 学生の目標設定の徹底、及び全教員の教育方針の共有と統一。
また様々な事情による学生の支援を制度として確立。
- (2) 卒業後のモデル像の明確化と就職希望学生の就職の実現
- (3) 社会貢献・地域貢献活動の推進
- (4) アトリエ環境の整備

3. 評価項目の達成及び取組状況

(1) 教育理念・目標

【評価項目】

適切:4 / ほぼ適切:3 / やや不適切:2 / 不適切:1

| | | | | |
|--|---|---|---|---|
| ○ 学校の理念・教育目標・育成人材像は定められているか (専門分野の特性が明確になっているか) | ④ | 3 | 2 | 1 |
| ○ 学校の特色は示されているか | ④ | 3 | 2 | 1 |
| ○ 学校の将来構想を抱いているか | ④ | 3 | 2 | 1 |
| ○ 学校の理念・教育目標・育成人材像・特色・将来構想などが学生・保護者等に 周知されているか | 4 | ③ | 2 | 1 |
| ○ 各学科の教育目標、育成人材像が方向づけられているか | ④ | 3 | 2 | 1 |

〈課題〉

変化の激しい業界に対応した人材育成において、カリキュラムを常に検討、改定が必要。
学生がより積極的に、より高い目標に向かって自発的に努力する力が弱い。

〈今後の改善方策〉

学生が現状に満足せず、より高い目標に向かって取り組む事を促すシステムの策定。
教育成果を具体的に視覚化し、またそれらの情報公開が求められる。

〈特記事項〉

昨年の課題として挙げた美術進学コースの授業内容の充実化とアトリエ環境整備を整えた。

(2) 学校運営

【評価項目】

適切:4/ほぼ適切:3/やや不適切:2/不適切:1

- | | | | | |
|-------------------------------------|---|---|---|---|
| ○ 運営方針に沿った事業計画が策定されているか | ④ | 3 | 2 | 1 |
| ○ 運営組織や意思決定機能は、明確化されているか、有効に機能しているか | ④ | 3 | 2 | 1 |
| ○ 人事、給与に関する規程等は整備されているか | ④ | 3 | 2 | 1 |
| ○ 意思決定システムは整備されているか | ④ | 3 | 2 | 1 |
| ○ 教育活動等に関する情報公開が適切になされているか | 4 | ③ | 2 | 1 |
| ○ 情報システム化等による業務の効率化が図られているか | ④ | 3 | 2 | 1 |

〈課題〉

次年度におけるカリキュラム策定期間の前倒し。

教育活動等に関する情報公開を強化する。

〈今後の改善方策〉

アトリエの快適化、及び効率化。映像設備の充実と活用。学内におけるIT化への環境整備と推進。

就業規則の改訂。感染症対策を講じた学校運営の推進。

高等教育修学支援新制度の対象校としての条件を整える。

〈特記事項〉

学内におけるIT化への環境整備、特にWi-fi環境が十分に整う。

教職員の積極的有給休暇取得の方針の実施。

(3) 教育活動

【評価項目】

適切:4/ほぼ適切:3/やや不適切:2/不適切:1

- | | | | | |
|---|---|---|---|---|
| ○ 教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか | ④ | 3 | 2 | 1 |
| ○ 教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた学科の修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか | ④ | 3 | 2 | 1 |
| ○ 学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか | ④ | 3 | 2 | 1 |
| ○ キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか | ④ | 3 | 2 | 1 |
| ○ 関連分野における実践的な職業教育(産学連携によるインターンシップ、実技・実習等)が体系的に位置づけられているか | ④ | 3 | 2 | 1 |
| ○ 成績評価、単位認定、進級、卒業判定の基準は明確になっているか | ④ | 3 | 2 | 1 |
| ○ 人材育成目標の達成に向け授業を行うことができる要件が体系的な位置づけにあるか | ④ | 3 | 2 | 1 |
| ○ 関連分野における業界等との連携において優れた教員(本務・兼務含む)を確保するなどマネジメントが行われているか | ④ | 3 | 2 | 1 |

〈課題〉

基礎課程教育と専門課程のバランスを考え、カリキュラム編成の見直し。

パソコンスキルの向上、IT時代を意識したカリキュラムの充実。

〈今後の改善方策〉

キャリア教育の更なる充実を図り、指導を強化する。

〈特記事項〉

学校関係者からの評価。および産業界、行政との連携を強化。

パソコン講座、先端メディア授業の拡充。

(4) 学修成果

【評価項目】

適切:4/ほぼ適切:3/やや不適切:2/不適切:1

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| ○ 就職率を向上させるための施策は図られているか | ④ | 3 | 2 | 1 |
| ○ 資格取得率の向上が図られているか | ④ | 3 | 2 | 1 |
| ○ 退学率の低減するための施策は図られているか | ④ | 3 | 2 | 1 |
| ○ 卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか | 4 | ③ | 2 | 1 |
| ○ 卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか | ④ | 3 | 2 | 1 |

〈課題〉

学生の就職の意識を向上させる強化が必要。

キャリア教育の時間を増加させるも、就職に対する意識が低い学生が多い。

〈今後の改善方策〉

1年次から就職意識を高めるカリキュラムを構築。卒業生の近況情報の把握。

留年者、退学者の分析、対策の構築。

業界のキャリアに結びつく資格の選択と教育カリキュラムの検討を行う。

〈特記事項〉

卒業後のモデル像の明確化と就職希望学生の就職の実現。活躍する卒業生の仕事に触れるコーナーの拡大。

(5) 学生支援

【評価項目】

適切:4/ほぼ適切:3/やや不適切:2/不適切:1

| | | | | |
|---------------------------|---|---|---|---|
| ○ 進路・就職に関する支援体制は整備されているか | ④ | 3 | 2 | 1 |
| ○ 学生相談に関する体制は整備されているか | ④ | 3 | 2 | 1 |
| ○ 学生に対する経済的な支援体制は整備されているか | ④ | 3 | 2 | 1 |
| ○ 学生の健康管理を担う組織体制はあるか | ④ | 3 | 2 | 1 |
| ○ 課外活動に対する支援体制は整備されているか | ④ | 3 | 2 | 1 |
| ○ 学生の生活環境への支援は行われているか | 4 | ③ | 2 | 1 |

- | | | | | |
|-----------------------------|---|---|---|---|
| ○ 保護者と適切に連携しているか | ④ | 3 | 2 | 1 |
| ○ 卒業生への支援体制はあるか | ④ | 3 | 2 | 1 |
| ○ 社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか | ④ | 3 | 2 | 1 |

〈課題〉

作家やフリーランスを目指す学生の活動支援。

〈今後の改善方策〉

業界、外部関係者と連携を図りながら学生支援、就職支援を強化、改善していく。

〈特記事項〉

個々に対応した学生支援を図る。ボランティア活動、コンクール出品の支援の強化、推進を図る。

(6) 教育環境

【評価項目】

適切:4/ほぼ適切:3/やや不適切:2/不適切:1

- | | | | | |
|--|---|---|---|---|
| ○ 施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか | ④ | 3 | 2 | 1 |
| ○ 学内外の実習施設、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか | ④ | 3 | 2 | 1 |
| ○ 防災に対する体制は整備されているか | ④ | 3 | 2 | 1 |

〈課題〉

学生ホールの充実。

〈今後の改善方策〉

大型修繕に備えての資金確保の計画の推進。

ITセキュリティの推進。

感染症対策における衛生面の強化。

〈特記事項〉

海外研修生の支援体制の強化。

全館Wi-fi設備、サーバーを一新。

図書室の充実。

校舎における大型修繕へ向けての具体的計画立案を図る。

教育施設、設備の充実を図る。

(7) 学生受入募集

【評価項目】

適切:4/ほぼ適切:3/やや不適切:2/不適切:1

- | | | | | |
|-------------------------------|---|---|---|---|
| ○ 学生募集活動は、適正に行われているか | ④ | 3 | 2 | 1 |
| ○ 学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか | ④ | 3 | 2 | 1 |
| ○ 入学選考の時期、基準、方法は適正に行われているか | ④ | 3 | 2 | 1 |
| ○ 学納金は妥当なものとなっているか | ④ | 3 | 2 | 1 |

〈課 題〉

既卒者に対する募集活動と教育成果のアピール強化。
大学入試改革の変化に対応した入試制度の確立が必要。
学修成果の視覚化と情報公開の準備を推進する必要がある。
留学生に対する募集活動の強化。

〈今後の改善方策〉

より厳格な入試制度の確立が必要。

〈特記事項〉

入試面接の強化と筆記テストの導入。
奨学金制度の改訂。
適正な募集定員を定め、学則変更を行う。

(8) 財 務

【評価項目】

適切:4/ほぼ適切:3/やや不適切:2/不適切:1

- | | | | | |
|-----------------------------|---|---|---|---|
| ○ 中、長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか | ④ | 3 | 2 | 1 |
| ○ 予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか | ④ | 3 | 2 | 1 |
| ○ 財務について会計監査が適正に行われているか | ④ | 3 | 2 | 1 |
| ○ 財務情報公開の体制整備はできているか | ④ | 3 | 2 | 1 |

〈課 題〉

既卒者等19歳以上の入学生の増加を図る。
不採算事業の見直し。

〈今後の改善方策〉

社会人教室の組織変更と立て直し。

〈特記事項〉

各年度毎の詳細な予算建てと計画、その収支の評価。
奨学金制度の改訂。

(9) 法令遵守

【評価項目】

適切:4/ほぼ適切:3/やや不適切:2/不適切:1

- | | | | | |
|---------------------------------|---|---|---|---|
| ○ 法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか | ④ | 3 | 2 | 1 |
| ○ 個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか | ④ | 3 | 2 | 1 |
| ○ 学校評価の実施と問題点の改善を行っているか | ④ | 3 | 2 | 1 |
| ○ 学校評価結果を公開しているか | ④ | 3 | 2 | 1 |

〈課 題〉

学校評価においては、今後第三者評価による点検を推進することが課題。

〈今後の改善方策〉

第三者評価による点検を図る。

〈特記事項〉

教職員の積極的有給休暇取得の方針の実施。

非常勤講師の就業規則の改訂。

(10) 社会貢献・地域貢献

【評価項目】

適切:4/ほぼ適切:3/やや不適切:2/不適切:1

- | | | | | |
|---|---|---|---|---|
| ○ 学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか | ④ | 3 | 2 | 1 |
| ○ 学生のボランティア活動を奨励、支援しているか | ④ | 3 | 2 | 1 |
| ○ 地域に対する公開講座・教育訓練(公共職業訓練等を含む)の受託等を積極的に実施しているか | ④ | 3 | 2 | 1 |

〈課 題〉

学生自身による積極的社会貢献活動・地域貢献活動の参加。

〈今後の改善方策〉

「オリンピック・パラリンピック2020」の豊島区文化プロジェクトと相互協力による社会貢献の推進。

〈特記事項〉

豊島区、池袋自治会、回遊美術館などと連携を図り、地域支援活動、アート活動、ボランティア活動の展開。

豊島区国際アート・カルチャー学生特命大使の活動推進。およびサポートの強化。

「東アジア文化都市2019豊島」への参加。いずれも予想以上の好評価を得る。

(11) 国際交流

【評価項目】

適切:4/ほぼ適切:3/やや不適切:2/不適切:1

- | | | | | |
|---------------------------------------|---|---|---|---|
| ○ 留学生の受入れ・派遣について戦略を持って行っているか | ④ | 3 | 2 | 1 |
| ○ 留学生の受入れ・派遣・在籍管理等において適切な手続き等がとられているか | ④ | 3 | 2 | 1 |
| ○ 留学生の学習・生活指導等について学内に適切な体制が整備されているか | ④ | 3 | 2 | 1 |
| ○ 学習成果が国内外で評価される取組を行っているか | ④ | 3 | 2 | 1 |

〈課 題〉

増加する留学生に向けた学習に対する体制強化。

〈今後の改善方策〉

留学生に対する厳正な入試テストの実施。

卒業後の留学生と連絡を密にし、在学留学生への情報提供、及び支援を計る。

〈特記事項〉

海外研修生の支援体制の強化。海外美術留学準備コースの強化。
留学生サポート担当による生活指導、及びサポートの充実。

4. 学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

(1) 教育評価

本校は、美術・デザインの造形教育アカデミーとして創立50年を迎え、歴史と伝統を培い、数多くの優れた人材を輩出してきた。また社会人としての自覚・責任を持つと共に柔軟性と応用力を兼ね備えた人間形成にも努めている。

本校では、時代のニーズに沿ったカリキュラムを組み、専門的技術と知識の効果的な指導方法、国際的な視点に立った教育を目指し、日々改良に努め、更なる教育内容の充実と研鑽を図っている。また、2018年度に立てられた5ヶ年計画に則って、更なる教育の向上を目指している。今後は外部からの意見を取り入れ、これらの結果の積極的な情報開示と、美術・デザイン業界における教育の重要性を考えていかなければならない。

(2) 財務評価

令和元年度の学生募集に於いて定員数いっぱいの入学となる。更に令和2年度の入学者は定員数を超えた応募があり、全校生185名と全学年ともに充実した学生数となる。今後はIT環境の整備強化を始めとし、より教育環境の充実を図る。

(3) 自己評価

令和元年度は前年度に引き続き学内設備・機器の改修、強化を図り、その成果として教育環境の向上が図られ、財務関係の安定がみられる。教育指針の明文化と特別サポート制度、経済的に就学困難な学生を支援する制度の導入、卒業後のモデル像の明確化といった施策により、学生それぞれが明確な目標に向かい、学生生活の安心と充実、教育の成果が見込まれる。

次年度へ向けての課題としては、今年度の結果に奢ることなく計画目標の達成に努力すること。時代の先を見据えながら更なる教育環境の快適化と効率を推進していくことが重要である。行政と連携を図り、アート・カルチャーなどのプロジェクト参加を通して社会貢献、地域貢献の強化を推進。より社会貢献を強く意識出来るクリエイターの育成に努める。また感染症防止対策の徹底と、オンライン授業などIT化推進への取り組みが急務である。なお、学生ニーズ及びその時代に合わせたカリキュラム編成は、常に改善を図り、早めの対策を引き続き推し進めていくことが肝要である。

(4) 学校関係者評価

少子化の中、大学が競合となりつつある時代に募集定員を超える出願があるということは、魅力ある学校だと評価をいただいているのではないかと。また創形美術学校を正しく理解いただけるように広報が行われている現れだと思われる。

卒業生が来校しやすい環境、設備が整っていることも評価できる。実際に他校と比較してもここまで頻繁に卒業生が訪れるのは珍しいこと。また在校生にとっても卒業生と交流の機会が多いことは教育的な側面からも良いことだ。さらに立地の良さを活かして地域の活性化に携わられていることも、創形の良さに繋がっているのだと思う。

新型コロナ感染防止対策の初動の速さ、対応力は平時から学校の組織として十分に機能していたとも言える。まだ新型コロナは収束しているわけではないので、引き続き学生、教職員の健康と安全に重点を置きながらの学校運営に努めてほしい。

今後の課題として、学校内外へ向けて「見える化、見せる化」の強化、推進を検討し、例えば1階のギャラリーのさらなる有効活用を推し進め、創形美術学校の価値の向上を目指してほしい。

5. 学校関係者評価委員の評価結果について

学校法人高澤学園創形美術学校の令和元年度自己点検・自己評価の結果に基づいて学校関係者評価を実施した結果、上記報告書は、創形美術学校関係者評価委員として、妥当な評価であることを確認し、認めます。

創形美術学校評価委員 令和2年8月14日

デザイン事務所 代表取締役 飯田淳

公益財団法人 としま未来文化財団 評議員 山口菊子

豊島区「国際アート・カルチャー特命大使」 田中北斗